

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

西麻植学校
「学力向上実行プラン」

豊かな心と確かな学力をはぐくむ学習活動の創造

学力向上推進員
森 浩子

委員 橋本浩司（校長）・長谷美穂（教頭）・山林諭未（1年担任）・福井陽菜（2年担任）・近久美穂（教務主任・3年担任）・白岩晃資（4年担任）・井内陽介（5年担任）・森浩子（研修主任・6年担任）・井後亜弥子（特別支援担任）・工藤恵子（特別支援担任）・河野恵子（特別支援担任）・近藤正二（専科）三木由里（養護教諭）・栗田幸奈（支援員）

校長
橋本 浩司

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組み、漢字の読み書きや計算など、基礎・基本の内容のおおよそを身につけている。 ●学習内容の定着に差があり、学力の差が大きい。 ●身につけた知識・技能があまり活用できていない。	・漢字・言葉・計算など基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ・話や文章を正確に聞いたり、読んだりすることができる。 ・身につけた知識・技能を家庭学習や生活の中で活用している。	・漢字・計算の課題を繰り返し行うとともに、ミニテストを行う。 ・「視写」「聞き取りテスト」を行い、言葉の基本や「聞く力」「読む力」を付ける。 ・タブレットのドリル活用により、「個別最適な学び」に導く。 ・自主学習や日記、作文や新聞作りなど、表現の場を設定する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目的意識をもって、自分の思いや考えを話したり書いたりする意欲が育ってきている。 ●語彙の広がりが少なく、スピーチや作文などの表現力に課題が見られる。	・目的意識や相手意識をもち、相手に伝わるように話したり書いたりすることができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら話したり、友達の意見と比較して聞いたりすることで自分の思いや考えを深め、表現する(発信する力)ことができる。	・「誰に」「何を」「何のために」をはっきりと分かる言語活動の場を設定し、発問・指示の工夫を行う。 ・他者との交流や体験活動により、考えを広げ、相手を意識した表現ができる場(発信の場)を設定する。 ・「話す・書く」活動において、国語教科書「ことばのたからばこ」を活用させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題は真面目に取り組むことができる。 ●「もっと知りたい、調べたい」という意欲や自分なりのめあてをもって学習に取り組む児童が少ない。また、意欲はあっても、具体的な学習の仕方が分からない児童がいる。	・これまでの経験をもとに新たな学習課題を自ら見つけ、「もっと知りたい、調べたい」という意欲と目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	・授業導入時に前時の振り返りを行い、授業終末には視点を示し、記述をさせる。 ・ICTを効果的に活用する。 ・学習したことを他教科、行事などに関連させ、つながりを持たせる。 ・「家庭学習の手引き」を活用して、自主学習ノートの充実を図る。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

